



## 温故知新～発展する伝統技術への挑戦

有限会社中江絹織物  
代表取締役社長 中江 久人

弊社は昭和46年4月に龍郷町出身である先代社長が設立し、鹿児島市鴨池町にて本場大島紬の製造及び販売を始めました。現在は主工場のある宮之浦町（旧吉田町）へ全ての機能に移し営業を続けております。

設立当初の時代は着物文化もまだ盛んで大島紬は県の産業として立派に成り立っていましたが、残念ながら現在ではそうとは言えない状況になっております。

その理由は様々あると思いますが、弊社では大島紬の長い歴史の中で今は特に変化が求められる時期ではないかと考えています。

先輩たちが培ってきた世界でも類を見ない織物である大島紬の製造技術を大切にしながらも、さらに発展させて社会に受け入れられる製品を生み出す努力が必要だと考えています。

弊社では製造技術の開発や改善等について鹿児島県工業技術センターに度々お世話になっております。

2006年においては藍植物における赤紫系統の染色について、これまでの藍染めとは異なる草木染め技法を発展させた技法で染色した「紅藍染めストール」が「2006かごしまの新特産品コンクール」において県知事賞を受賞するこ

とができました。また高堅牢度大島紬「Silk-Oj」の開発に際しては工技センターにおいて各種堅牢度試験を行い、アドバイスを頂きながら通常の洋服と変わらない取扱い方法を実現した大島紬を開発することができました。この「Silk-Oj」を使用した大島紬シャツ「かごんまのいっちょびら」が「2012かごしまの新特産品コンクール」において観光交流局長賞を受賞することができたとともに、株式会社山形屋様及び高山C HOYAソーイング株式会社様と共に大島紬部分使いワイシャツの共同開発を行い2012年より販売を開始することが出来ました。この大島紬部分使いワイシャツは鹿児島銀行様の制服に採用される等、非常に高いお客様の評価を得ることができました。

大島紬はひとつの贅沢品ではありますが、日本及び鹿児島島の心が色濃く織り込まれた織物であり、そうであるからこそ人の心に安らぎを与える力を持っています。

どのような時代であっても、大島紬の良さを伝えることができるようなモノづくりをしていくために、歴史を振り返り学びながらも新たな研究開発への努力を惜しまないチャレンジ精神を持ち続けたいと思います。



紅藍染めストール



大島紬部分使いシャツ



工場外観